

学生による授業評価高得点者の学長表彰について

平成 26 年度 FD 推進委員会委員長

岩 島 誠

平成 12 年度より、本学の FD 活動の一環として、本学教員が開講する授業（講義、演習、実習、実技等）につき、各学期末に学生による授業評価（アンケート）を実施してきた。本評価を実行する主たる目的は、以下の 2 点である。

1. より良い授業を実施し、教育効果の向上および教授法の改善を実現するため。
2. 顧客である学生が、日頃の授業に対してどの程度満足しているか、当該授業を主宰した教員に対する学生の満足度を調査するため。

本評価は、概ね 10 の質問について 4 ～ 5 段階で回答するアンケートおよび学生の自由記述により構成されている。年次進行に伴い一部の質問項目に若干の改定があるが、他大学等で実施されているものをひな形としており、全国的にも通用する内容である。近年の回答率減少への対応、並びに教育現場の実態に合わせた評価項目にするため、本学 FD 推進委員会において、現在改善案を検討している。

学長表彰は、平成 25 年度より実施され、前学期、後学期の両学期末に行っている学生による授業評価において、いくつかの質問項目に対する学生からの評価が高得点であった教員を対象として、学長が表彰するものである。今年度までに 6 名の教員が「授業評価優秀（高得点）賞」を受賞されている。6 名の教員は学生の声に真摯に応え、それぞれが独自に試行錯誤を繰り返し、双方向性を保ちつつ、日々工夫を凝らして PDCA を周回させている。たゆまぬ努力の結果が本授業評価の高得点につながっていることは間違いなく、平成 25 年度と 26 年度の秋の FD 講演会にて、表彰された 3 名ずつ計 6 教員の教授方法、授業への取り組み等について、以下の通りご教示頂いた。教員の授業参観・研究授業等の企画の際には、再度ご協力願いたい。また、本学の一部の教員には耳の痛い話かもしれないが、受賞者教員の例を参考に、少しずつ評価が良くなる（学生の満足度向上につながる）ようにご対応、ご協力願いたい。

平成 25 年度 受賞者

渡邊 賢二（医療福祉学科）
三浦 俊宏（医療栄養学科）
田口 博明（薬学科）

平成 26 年度 受賞者

松原 新（医療福祉学科）
中東 真紀（医療栄養学科）
浅田 啓嗣（理学療法学科）

本紀要には要約を掲載しておりますが、全文につきましては本学ホームページに掲載されております。

平成 25 年度 受賞者

授業構成の工夫について

医療福祉学科 渡邊 賢二

90分授業の初めの10分間を前授業に学生が記述した感想や質問について、フィードバックをする。このことは学生の感想の記述から復習になっていると考えられる。授業の導入の時間であり、学生の授業に対する興味・関心・モチベーションを向上させるために最も重要な時間となっていると思われる。60分間は本時間の新しい単元の授業を実施する。その際、心理学が日常生活にどのように用いられているかに焦点をあてて授業を展開する。最後の20分間は心理テストを行う。この心理テストは学生の自己理解・受容という目的で実施する。実施後は心理テストの解説を行い、心理テスト用紙の裏面に授業の感想や質問を記述し、授業を終了する。ほとんどの学生は初めて心理学を学習するため、できるだけ興味や関心をもつように難しい専門用語は容易な言葉に置き換えている。また話し方にも最善の工夫をくわえて、学生に授業を展開している。

授業改善への取り組み

医療栄養学科 三浦 俊宏

私が日ごろ授業改善について取り組んでいることを、記載いたします。

- 最初の3回の講義

最初の3回までの講義で学生は授業への対応を決めることがある。“この授業は寝る”と決められる前に興味を持たせる。

- 国家試験との関連

講義科目にもよるが、国家試験に出たことを示すと関連性が分かる。

- 身近なものから説明（日常動作から）

良く行う身近な日常動作から説明すると分かりやすい。

- 基本の型

絵や図を使う場合、基本の型を用意してそこから応用したものであることを示す。基本の型は何度も良く使う絵や図であることが重要である。

- 関連する面白い事

笑いのある授業内容はよく覚えているようである。しかし、授業に関連のない事柄での笑いはその部分は覚えていないが、重要事項が忘れていていることがある。

以上、授業改善の取り組み内容を羅列したところですが、私自身も気づかないところが多々あります。今後も授業改善を追求していきたいと思えます。

授業改善、教育改革への取り組みについて

～薬学部で行っている講義の一例～

薬学科 田口 博明

私は、講義の第1回目に、目標設定の明確化を行っている。まず、化学を学ぶことの意味について話し、学生自身が到達しなければならない目標設定（化学がどのように薬剤師と関係しているか）を行う。講義では、PDCAサイクルを回転させ続けている。PDCAサイクルとは、講義計画の立案（Plan）、講義を行うこと（Do）、アンケートによる講義評価（Check）、アンケート等に記された改善すべき点等を、次回授業計画へ反映する（Act）である。これを回転させ、講義の改善を行っている。さらに、①講義アンケート（講義を振り返ってもらい、教える側と教えられる側のギャップを無くす）②小テスト（学習する習慣を身につけ、知識の定着を意識させる）③クリッカー（演習問題の導入により能動的な講義への参加を促す）を行っている。学生の質問や批判等に耳を傾けることにより、学生の躓きを知り、解決策を共に考え、今後も継続的な講義の改善を行っていききたい。

平成26年度 受賞者

「学生に伝えたいこと」

医療福祉学科 松原 新

将来医療機関のワーカーを目指す学生に対して講義をとおして伝えたいことは以下の点である。専門職として患者様に関わるためには「存在への深いまなざし」を携えておくことが必要であり、そのためには①神秘的に満ちた存在である人間②孤独な存在である人間③不完全な存在である人間、という側面を理解することが求められる。互いに生れ落ちた瞬間から孤独と不完全さを持ち合わせた存在が、互いに病み得る存在であるという普遍的な事実を確認することによって、はじめて関係性が成り立つことを初回講義で学生に伝える。

さらに私は、講義の最後の5分間を使って絵本の読み聞かせを行っている。絵本は、人生において未解決であった課題を整理したり、無意識の領域の内容を再度意識に昇らせて心の再統合を行ったりと、専門性を育むのには効果的な教材である。

今後も講義において学生と誠実に関わりながら、互いに学びを深めていきたいと考えている。

眠れない授業をめざして

医療栄養学科 中東 真紀

臨床栄養学は、主に臨床現場に必要な知識と技術を修得するための科目である。日本の病院や老人保健施設などで勤務する管理栄養士の業務は、過去10～15年くらいの間に大きく変わった。従来は経口栄養法を中心とした食事管理と、病院食の大量調理を運営管理する業務に重点を置いてきた。現在では、個々の患者や入所者の栄養アセスメントを行い、経口・経管栄養法、静脈栄養法の管理を行うNSTの重要な仕事を担っている。講義では「人間のいのちに関わる仕事」の重要性を学生に伝えるために、眠れない授業をめざしている。実際の症例をスライドやDVDで示して、「わかりやすい言葉で講義する」「最新情報を伝える」「国家試験に繋がる内容」「学生が興味を持ち、新しい発見ができる授業」などを心掛けている。どの科目も15コマの中で、すべてを詳細に教えることはできない。学生が学問に興味を持ち、「もっと詳しく勉強したい」と学習意欲が湧くような授業を目標にしている。

私の授業の工夫

理学療法学科 浅田 啓嗣

単に「覚えるだけ」の学生に、「議論し合うことで物事を理解し、発展させる力」を少しでも身につけて欲しいと考え、グループワークを中心に授業を展開している。4～5名を1グループとして授業に即した課題を与え、以下のことをねらいとしてすすめている。①体験して考えたことを書く・話す ②他者の意見を聞いて自分の意見を修正する ③答えを与えてもらうのではなく自分で見つける ④学んだことの説明ができることを重視する。

また、学生が発言することをためらわないように質問の工夫をしている。①「何を覚えたか」より「何を考えたか」を問う ②答えることが「恥ずかしいこと」ではなく「授業が展開すること」だという印象を与える ③「わかりません」は受け付けない ④答えられない場合は質問を変えて必ず答えさせる など意見を否定せず、言える雰囲気づくりを心がけている。

今後も、学生の状況に合わせた授業展開を検討していきたい。